

令和元年度 宮崎県立都城きりしま支援学校小林校学校関係者評価書

4段階評価

4 十分満足できる

3 ほぼ満足できる

2 やや物足りない

1 改善を要する

【総評】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
教育活動	1児童生徒の実態に即した教育課程の編成と教育計画 2分掌部や学部間の連携、円滑な校務運営 3生きる力を育ぐむための教材教具の開発や学習環境の整備 4集団生活への参加、友達と協力する態度や能力の育成 5保護者への教育方針や教育活動の伝達 6好ましい行動の仕方を身につけさせる適切な指導 7児童生徒や保護者・地域社会のニーズに応える教育 8児童生徒理解に立った指導	職員の自己評価の平均は2.9、保護者は3.4となった。いずれも微増となった。項目3の「教材教具の開発や学習環境の整備」に関しては、成果にもあるように、子供の実態に応じた課題を把握し、それに対応した指導支援が充実してきている。課題となつた項目8の「児童生徒理解に立った指導」については、更なる働き方改革を行い、子供と向き合う時間の確保に努めたい。 また、教育方針については、本校化するに当たり、新しいものを作成したので、より充実した教育実践と供に、その周知にも努力していきたい。	3	3	中学校から受検して入学してくる生徒が多い小林校にとって、特に支援が必要であり、発達障がいをベースにもつた生徒が増え、教育方法や対応が多様になっている中、子供一人ひとりに合った教育を提供している。 併設校があることを十分活かし、さらに発展させていただきたい。 先生方が教育に対する充実や熱意、自覚をもって取り組まれていることが伝わってきた。
連携・支援	9個別の指導計画、個別の支援計画、移行支援計画を作成し、保護者や関係機関との連携、長期間の見通しをもった支援 10学級通信、連絡帳、懇談などによる保護者への連絡 11共生社会を目指した学校・地域づくりの推進 12障がいや個性に応じた進路・就業支援 13地域センターとしての相談・連携・支援機能の充実	職員の自己評価の平均は2.9、保護者は3.4となった。併設校との連携については、本校の特色でもあることから、マンネリ化を防ぐため、内容を充実してきた。また、項目12の「児童生徒の障がいの状態や個性に応じた進路・就業支援に努めているか」については、キャリア支援部を中心に、児童生徒に応じたきめ細かな実習や関係機関との連携をしっかりと行ってきた。 今年度は「ミライム」というグループウェアが立ち上がり、学部間が離れているという本校のデメリットが改善され、連携や共有が図りやすくなつた。	3	3	個別の指導計画や個別の教育支援計画等においては、保護者の意見を十分に反映し作成されていると思う。その後の支援過程や状況の変化等については、保護者との信頼関係を基にしっかりと伝え、きめ細やかに連絡することが大切である。 児童生徒数の増加に伴い、個別面談や三者面談等の時間確保が難しくなると思われるが、面談等をとおして児童生徒の目標や課題等を丁寧に説明する必要がある。 併設校との体育の授業を見学して温かいものを感じた。
研修	14研究や研修を通じての専門的指導力の向上 15職員のニーズに応じた研修、教育間の相互支援	職員の自己評価は2.6となった。本年度からは、新学習指導要領についての理論研究やそれに合わせた年間指導計画の見直し等に取り組んだ。作業等が中心となり満足感は低かった。今後、これに沿った教育課程の充実を図る。今後は授業研究等も計画している。	3	3	本校化に伴い、独自の研修の在り方等に期待する。これまで同様に多方面から講師等を招へいし研修計画を作成してほしい。指導支援の方法は職員により異なるが、障がい特性の理解は不可欠なので、校内外の研修で各先生方のスキルアップの向上を今後も継続してほしい。

生活・安全	16 児童生徒の健康な心身、基本的生活習慣の確立	職員の自己評価の平均は3.0となった。危機管理に関しては、様々な状況を想定した訓練を実施した。防災メールと電話を活用し、災害時の児童生徒保護者引き渡し訓練を実施している。また、医療的ケア対象の児童生徒における緊急時対応シミュレーションも実施しており、今後も更に課題解決に向けて取り組んでいきたい。	3	3	基本的な生活習慣の習得は、継続的指導が成果につながっている。 車いす用トイレの改善及び増設の必要性を感じた。また、その他の施設設備面の改善を含め、容易ではないかもしれないが、適宜可能な改善をお願いしたい。 緊急時対策として今後も様々な場面を想定して訓練を行い、子供や職員の安全管理体制に努めてほしい。
	17 交通マナー、社会規範意識等の安全指導の徹底				
	18 安全面に留意した準備や対応				
	19 緊急時対策の整備と対応の充実				
その他	20 諸会議、校内研修、課題研の効果的実施	職員の自己評価の平均は2.6となった。特に項目25の「施設整備等安全な教育環境」に関しては、1.7と全項目を通じて最も低い評価となった。職員や保護者からの反省にもあるように、施設設備面では、知能併置の特別支援学校であるにもかかわらず、バリアフリー化や保護者送迎のスペースなど、施設設備面での課題は山積している。今後も関係機関と連携しながら改善を進めるなど、よりよい教育環境の整備に努めていきたい。	3	3	教育環境面の安全は学校単独で行える範囲は取り組まれており、国や県に現状を伝え、より快適で安全な教育環境を目指してほしい。 家庭教育学級の取組は、PTA活動の活性化に向け大変素晴らしい取組である。 職員の働きやすい環境は生徒の指導にもより良い効果をもたらす。ミライムの導入など、職員の働きやすさのバックアップ体制は素晴らしい。 「学校に行くのが楽しみ」という保護者の評価が高く、学校の子供に対する思いやりを感じた。
	21 児童生徒や職員の人権保護				
	22 会議の精選、時間短縮、事務処理の軽減化				
	23 児童生徒は登校を楽しみにしているか				
	24 PTA活動の活性化、保護者の積極的参加				
	25 施設・設備等、快適で安全な教育環境				
	26 個人情報の管理、必要な情報の提供				

1 本年度の取組について…「コスモススピリッツ」に関する事項

<自立>「自立に向け主体的に生きる力の育成」

- ・理論研究で「本校の子供たちに何を身に付けさせるか」についてKJ法を用いて検討したり、日々の授業において児童の実態に応じた課題を把握したりして、子供の生きる力を育むための教材・教具や学習環境の整備に努めてきた。
- ・キャリア教育の視点から、中学部の進路体験学習、高等部の産業現場等における実習を通して、卒業後を見据えた指導や支援に努めた。また、児童生徒、保護者対象の就労に向けた進路学習会、福祉サービス事業所説明会を実施し、進路選択や決定につなげた。さらに、今年度はキャリア支援部にコーディネーター等を加え、教育相談及び進路相談等を充実することができた。

<協力>「互いに助け合う豊かな心の育成」

- ・防災メールを活用して、災害時の保護者引き渡し訓練や医療的ケア対象児童生徒の緊急時訓練を実施し、危機管理の強化を図った。
- ・東方小学校・中学校、小林高等学校との日常的な交流や居住地校交流を通じて、相手を思いやる豊かな心の育成につながった。
- ・コンプライアンス研修や「ワン・アクション運動」(学校全体が取り組む)「ワン・トライ運動」(職員1人1人が取り組む)に積極的に取り組み、服務規律の遵守と危機管理体制の充実を図った。

<挑戦>「家庭や地域と連携し、地域に開かれた学校の実現」

- ・心のバリアフリー推進事業でのボッチャの体験学習や障害者スポーツ大会を通じて、児童生徒の目標達成につなげることができた。
- ・西諸地域の小・中学校及び高等学校等の要請相談等に対応し、地域におけるセンター的機能の充実を図った。

2 次年度へ向けて

- 本校化に伴い、本校の特色を活かした教育を更に充実させ、保護者や地域に本校のよさを発信していく。
- 本校の課題であるバリアフリー化や保護者送迎のスペース、教室不足等、施設設備面での課題を解決すべく環境整備に努める。
- 東方小・中学校、小林高等学校との交流及び共同学習や居住地校交流の活動内容を見直し、学習内容の充実を図る。
- 災害時緊急時対応訓練及び児童生徒保護者引き渡し訓練をより実際に即して実施することにより、危機管理体制の強化を図る。